

メキタジンの PCA 反応に及ぼす影響

方法

前日にラットの背部を剪毛し、正中線を挟んで一側の 2 箇所を生理食塩水で 50 倍希釈した抗 DNP-As (48 時間 PCA 力価=256) 血清の 0.1mL を皮内注射した。反対側の 2 箇所には生理食塩水の 0.1mL を皮内投与した。48 時間後蛋白質量として 1mg の DNP-As 及び 2.5mg の Evans ブルーを含む生理食塩水の 0.5mL/kg を尾静脈内に投与して PCA を惹起した。30 分後に動物を断頭によって放血致死せしめ、背部皮膚の青染部分を切り取り、1mL の 1N 水酸化カリウムを加え、37°C で 1 晩インキュベーションして皮膚片を溶解した。0.6N リン酸 : アセトン = 5 : 13 液を加えて全量を 10mL として色素を抽出した。この液を濾過し、濾液の 620nm における吸光度を測定し、別に求めた検量線から色素量を算出した。

結果及び考察

反応惹起 1 時間前の投与において、メキタジン、クレマスチンフマル酸塩及びクロルフェニラミンマレイン酸塩はいずれも有意な PCA 抑制反応を示し、その強さはメキタジン = クレマスチンフマル酸塩 > クロルフェニラミンマレイン酸塩の順であった。反応惹起 5 時間前の投与においてメキタジンは有意な PCA 抑制作用を示したが、クレマスチンフマル酸塩及びクロルフェニラミンマレイン酸塩は影響を及ぼさなかった。従って、メキタジンはクレマスチンフマル酸塩及びクロルフェニラミンマレイン酸塩に比較して明らかな持続性を有すると思われる。

表 抗 DNP-As 血清による PCA 惹起ラットに対するメキタジン、クレマスチンフマル酸塩及びクロルフェニラミンマレイン酸塩の効果 (n=8)

薬物	投与量 (mg/kg) p.o.	色素量 (μ g/site)	
		1 時間後	5 時間後
コントロール	—	12.6 \pm 1.05	12.2 \pm 1.16
メキタジン	5	6.3 \pm 0.64***	8.0 \pm 0.74**
クレマスチンフマル酸塩	5	6.2 \pm 0.37***	11.9 \pm 1.06
クロルフェニラミンマレイン酸塩	5	8.8 \pm 0.60**	15.3 \pm 0.96

** ; P<0.01、*** ; P<0.001 対コントロール